

令和6年度 西武学園文理中学校自己評価表

目指す学校像	課題設定と合意形成の力を育む		凡例	A ほぼ達成 (8割以上)
重点目標	グローバル社会で活躍しうる主体性を持った国際人としての素養を身につける。 多様性を重視し、ともに学ぶ意識を育てる。 自己の未来を切り開く力と非認知能力を養わせる。			B おおむね達成 (6割以上)
				C 変化の兆し (4割以上)
				D 不十分 (4割未満)

年度課題			年度評価		次年度への課題と改善策
No.	課題	具体的目標	課題項目の達成状況	達成度	
1	教育活動	学力の向上	グローバル化する社会に対応していく力を育てるために国際バカロレア（IB）のMYPプログラムの導入に向けて取り組んだ結果、候補校に認定された。	A	認定校に向けて、教員研修を重ね先行授業を実施していく。
			英語教育は、2クラス3展開の分割授業により、生徒の能力と希望により、学期ごとに所属クラスを見直せるように工夫し、個々の能力に応じた授業を受けられる体制を実行した。	A	次年度から実施可能な状態に環境を整備することができた。教科横断型の授業などの新たな取り組みを推し進めたい。
			英検や漢検の受験を奨励する。特に英検については、3級取得を卒業要件として課し、卒業までに英検準2級以上の取得を呼びかけた。	B	土曜講座などを工夫し、英検の準2級以上の取得率8割を目指す。
			中学生として必要不可欠な知識を備えることはもとより、CA、卒論、ガチプロなど、体験的な活動や研究を大切にしながら、非認知能力の育成も図った。	C	知識伝達型の旧来の授業形態を見直し、生徒主体のプロジェクト型重視の形態への移行を進める。
	人間形成		部活動では、全国大会に出場する団体もあり、生徒の努力と成長が認められた。委員会活動や学校行事も生徒中心に運営する機会を設け、生徒達に達成感や協調性の大切さを実感させることができた。	A	学年を超えた縦のつながりの強化にも期待する一方で、各人には自分の行動に責任を持たせる。
			ガチプロを通じた実社会との関わりから対人関係を学んだ生徒も多い。また、「総合的な学習（CA）」の成果を文化祭や卒業公演の中で発表できた。学習活動の様々な場面で成果の発表の場を設けることで、仲間との協調性を養うと共に、プレゼンテーション能力などを身に付けさせることができた。	B	教員及び生徒がPBL活動に慣れ、目的意識を持って主体的に取り組める環境を整えたい。
			いじめについては生活アンケートを実施し、担任との面談によって防止に努めた。また、薬物乱用防止、SNS使用時の留意点、性教育、臓器移植医療など、定期的に講演会を実施し、人権意識を高め、非行防止・人権教育・心の教育にも努めた。	B	人権教育を通じて、多様性を理解し合うとともに、思いやりの心を大切にしたい。各人の心のバリアフリーを実現させたい。
2	学校としての組織的対応	中高連携	小中高の連携を強化するため定期的に開催し、意見交換をすることができた。	B	小学校との情報共有は進んだ。小中高で連携した行事なども考えたい。
		保護者との連携	保護者会やクラス懇談会（年3回）に加え保護者面談（年1回）も実施した。年度当初の保護者会で学年運営計画を説明し、理解と協力を求めた。また、スタディサプリ連絡帳を用いて、情報共有を図った。	B	次の時代に向けた新しい教育のあり方を推し進めると同時に保護からも応援されるように情報共有をしていく。家庭に必要な情報を届け、学校の取り組みについての理解をお願いする際には、情報が一方通行にならないように配慮する必要もある。
		教育活動の配信	学校行事やクラブ・委員会活動の様子など、学校SNSなどを用いて情報を発信し、学校の様々な活動を保護者に伝えた。	B	情報発信回数を増やしていく。
		学習環境の整備	授業においても端末の利用を促し、ICTスキルの向上のために努力した。	A	ICT機器の補強、電子黒板などへの切り替え等を検討し、生徒の学習環境を改善したい。
3	教職員人材育成	授業アンケート・学校アンケートの実施	授業担当は、年2回の授業アンケートによって明らかになった改善点を精査し、一覧にして教室内に掲示し、生徒にフィードバックしている。学校アンケートについては、2回の変化を検証し全教員で共有した。	B	授業観察や研究授業を充実させ、授業力の向上を図る。学校アンケートの結果を踏まえ、見えていない改善点を洗い出す。
		DX研修	全教職員に10時間の研修を義務付けて、3日間にわたる外部講師によるスキルアップのためのICT研修が実現した。	A	今後も業務の中でAIを効率的に使いこなすスキルを磨いていく。
		海外人材交流	カンボジアの学校へ教員を派遣や受け入れを通じて、教員の意識改革やスキルアップを図る。今年度は、1名を派遣した。	A	継続的な交流を実現させたい。
		職員研修の実施	年間を通じての教員研修はオンラインを計画した。研修内容は、職歴や職種別に研修内容を変えて受講を義務付けた。その他、いつでも幅広い内容の講座の中からオンデマンドで受講が出来るように共有した。	B	年間を通じてより計画的な研修を実施し、資質向上に努める。リスニングのための投資を行いたい。

令和6年度 西武学園文理中学校学校関係者評価

目指す学校像	課題設定と合意形成の力を育む		凡例	A	そう思う
重点目標	グローバル社会で活躍しうる主体性を持った国際人としての素養を身につける。 多様性を重視し、ともに学ぶ意識を育てる。 自己の未来を切り開く力と非認知能力を養わせる。			B	どちらかといえばそう思う
				C	どちらかといえばそう思わない
				D	そう思わない
				E	わからない

評価項目	学校関係者評価	次年度への課題と改善策	意見・要望など			
総合的評価	学校からの情報提供は、充実している	(1)バスの利用率・乗車率などを踏まえて、運行状況を把握し、改善策を探る。 (2)老朽化した施設・備品などを調査し、改装・改善を提案するなど、生徒の学校生活における安全性を保障する。 (3)生徒と保護者の声に耳を傾けて、問題解決のためのプランを策定する。	スクールバスがもっと頻繁に出ているといい。今は不便を感じる。給食がない日のお昼や部活後に食べることができるよう自販機の量を増やしてほしいです。学習室の個別指導を復活させて下さい。保健室が遠い。中学棟に保健室を作ってほしい。校長先生と意見交換する場がほしい。自由、生徒主体、だからこそケジメをもつことの大切さも指導してもらいたい。まだ中学生でスマホを自己管理にするにはリスクがありすぎる。給食がない日のお昼や部活後に食べることができるよう自販機の量を増やしてほしいです。現状カフェテリアは高校生でいっぱいなのに自販機は使用禁止となっていたり、売り切れのことも多いと聞きます。教室後方のロッカーの老朽化が激しく、子どもがYシャツを引っ掛けて、			
	いじめなどの問題が少なくていい					
	学校の立地環境はいい					
	グローバル教育が充実している					
	進路指導が充実している					
	学費は適切であると思う					
	部活動が充実している					
	学校行事が充実している					
学校の雰囲気や校風が良い						
学習指導評価	学習指導や教科指導に満足している	(1)MYP認定に向けて教授方法の工夫と改善をおこなう。 (2)ゼミや補習の更なる充実を図る。 (3)土曜日の活用について改善を図る。 (4)キャリア教育の充実を図る。 (5) ICT機器の充実と利用状況の拡大	S限がなくなり漢字や英単語の基礎から低下しているように思える。プラクティステストも平均点や、順位が知りたかった。期末に向けての指針になると思うので、今後は出していただけるとありがたいです。学習室の個別指導を復活させて下さい。勉強のやる気ない子供も押し上げてくれる学校だと嬉しいです。成績下位層に知識定着するまで補習参加を義務付けてほしい。宿題の期日をもう少し短くして欲しいです。ノートや宿題など、中学生の基本的なところからできるようになりたいです。			
	教科カリキュラムやシラバスは適切なものである					
	生徒支援は適切である					
	教科指導力がある					
	質問や相談に、誠意をもって的確に対応してくれる					
	生徒に公平に対応し、信頼できる					
	教員評価			保健室は、来室者に対し、適切に対応している	(1)教員は、生徒一人一人に寄り添い、伴走するサポーターとしての立場を意識する。 (2)生徒からの質問や相談がしやすいように、言動には留意し、生徒との関係性を良好に保つ。 (3)定期的なアンケートを実施し、結果を振り返る。 (4)指導の差がでないように、研修等を通して共有と指導方法の改善を図る。 (5)カウンセリング室と保健室と学年の連携を図る。	学校改革以来、笑顔がふえて学校のことをよく話してくれるようになりました。家庭学習の目安になるようなもののスケジュールが欲しいです。早くシラバスを出していただきたいです。勉強だけでなく全般において学校が指導している感がなく、学校が目指す方向性が分かりません。宿題もなくシラバスもないのでどこを目標に勉強をすればいいかわかりません。目標なく勉強をするのは大人でも難しいのではと思っています。せめてS限を復活していただけないでしょうか？勉強のフォローや定着の対策があればお願いしたいです。勉強のやる気ない子供も押し上げてくれる学校だと嬉しいです。
				長期休業中の課題の内容や量は適切である		
普段の宿題の内容や量は適切である						
成績下位者の面倒をよくみてくれる						
成績上位者をさらに伸ばしてくれる						
基礎学力の定着がきちんと行われている						

令和6年度 西武学園文理高等学校 学校自己評価表

目指す学校像	課題設定と合意形成の力を育む	達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
重点目標	グローバル社会で活躍しうる国際人としての素養を身につける。 自ら問いや課題を設定し解決していく力を身につける。 自己の未来を切り開く力と大学での深い知識・技術を修得するために必要な力を身につける。		B	おおむね達成 (6割以上)
			C	変化の兆し (4割以上)
			D	不十分 (4割未満)

年度課題			年度評価		次年度への課題と改善策
No.	課題	具体的目標	課題項目の達成状況	達成度	
1	教育活動	学力・学習意欲の向上	文理探究や令和6年度からのガチ・プロジェクトに積極的に取り組んだ生徒が、課題発見力や課題解決力を高め、総合型選抜や学校推薦型選抜で評価された。日頃の教科学習で基礎学力を定着させるとともに、探究のサイクルを回し続けたことが合格に結びついた。	A	令和7年度からの文理探究はコース（スポーツ・アート・クリエイティブ）ごとに取り組むため、それぞれの特色を出すための準備を十分に行う。
			予備校などの担当者を講師に模擬試験の分析会を行い、学年の教員内で課題を共有し対策を検討した。また外部での研修に参加した教員が積極的に情報共有を行い、進路指導への生徒・教員への意識の向上に貢献した。	B	各教科または教科を越えて、新たな学力を育成するための指導方法についての研究を推進し、大学入試問題研究による教科指導力の向上を目指す。
			高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）の指定校となり、デジタルを活用した文理横断的・探究的な学びを促進するため、理科実験室や選択教室に電子黒板を、全HR教室にプロジェクターを配備した。	B	デジタル機器の充実にともない、機器の授業等に活用するための工夫が必要であり、校内研修を行っていく。
			令和6年11月、イギリスの North Halifax Grammar School と姉妹校協定を締結し、令和7年3月と4月に双方の生徒が互いの学校を訪問した。またターム留学や長期短期の海外留学、外国人生徒の受け入れなど、グローバルな社会で活躍できる人材を育成した。	A	英語を母語とする地域だけでなく、アジアなどへも生徒間の交流の場を広げていく。
		人間形成	「自ら課題と向き合い、主体的に問題を解決する力」や「人間として大切な真、善、美の心」を育てる学校行事（中高別体育祭・文化祭・高2海外研修旅行・高1・2探究発表会など）が、以前よりも生徒が主体となって取り組んだため、生徒の満足度が上がり充実したものになった。	A	学校行事等で生徒が主体的に取り組めるために、教員が過剰な指導をしないよう心がける。
2	学校としての組織的対応	企画運営会議の活用	週1回の企画運営会議では学年・分掌からの協議題を扱い、企画案や問題点をスピード感をもって対処すべく会を実施してきた。またその議事録を速やかに学内に公開し情報共有がスムーズになった。	B	報告・連絡・相談を行う場であると同時に諸問題の解決に向けて決定していく場であり、教員の意見を広く求める職員会議や決定機関の管理職会議とはその性質を異にすることを周知する。
		学校説明会の運営	学内で開催される学校説明会を生徒のプロジェクトとし、生徒が司会やコース・学校行事の説明、誘導などを行い、好評を博した。	B	生徒の工夫されたプレゼンテーションの評価は高いものであったが、日常的な学校生活を知りたい受験生、保護者もあり、説明会の内容のバランスを考える必要がある。
		学校改革	育てたい生徒像とともに、3つのポリシーに根ざした本校が目指す姿を共有し、日々の活動に生かした。多様な価値観をもつ仲間と協働できる人材を育成するために、内進生と高入生の混合クラスを継続し、探究をより深化させた。また制服、頭髪に関する校則を見直し、実質自由化した。「自分で考え、行動する人材」へと非認知能力を重視する教育活動を促進し、日々の学校生活を通して判断力・自己表現力を育む経験の場を与えた。	A	主体性を育む教育、多様性を認め合う意識を培う教育の実践であるが、生徒が自由と自己中心的な行動をはき違えることが無いよう、注視していく必要がある。
		教育活動の対外的報告	1・2年生の探究活動の成果発表会を2月に狭山市市民会館で行うことができた。審査員として狭山市長や大学教員に出席いただき、生徒発表に対し高い評価を得た。またXやInstagramなどの公式SNSを活用して情報発信の回数を多くした。	B	生徒・保護者だけでなく、文理高校に興味のある方に情報が届くよう、さらに発信回数を増やす。
3	教職員人材育成	業務面談の実施	「目標設定シート」作成、中間報告、年度末学年主任面談を行い、自己点検・自己評価の改善を図り、自ら課題を明らかにした。年度末には課題の達成度を各自で評価し、学年・分掌業務、教科指導の改善などに結びつけた。	C	学校や学年、教科としての目標実現のために、教員各自が数値目標を設定し、具体的な施策を示して、教員の自己点検・自己評価の分析を促す体制を整える。各主任と管理職の定期的な面談を実施する。
		教員研修	全教職員に10時間AIの活用などを含んだICT研修を実施した。またICTに精通した教員がChromebookの活用方法などを、学内に積極的に発信した。Find! アクティブラーナーを使って動画視聴と対面でのグループワークを行い、教職員のスキルアップを図った。	B	最新のAIを活用できるようICT研修も回数をさらに増やしていく。全教職員が動画視聴での研修を完了させるよう周知する。
		授業アンケート	7月と12月の2回授業アンケートを実施し、生徒の学力向上につながる因子を捉え、何が生徒の学力向上に影響を及ぼしているかを分析した。アンケート結果をもとに、生徒に対して教員の受け止めと改善策をクラス内に掲示し、授業改善に役立てた。また教科内で情報を共有し、授業改善へと繋げた。	B	授業アンケートをもとに個人だけではなく教科の改善点も洗い出し、教科として改善へ取り組み、学力向上を実感できる授業展開へと発展させる。

令和6年度 西武学園文理高等学校 学校関係者評価

目指す学校像	課題設定と合意形成の力を育む		そう思う		
重点目標	グローバル社会で活躍しうる国際人としての素養を身につける。 自ら問いや課題を設定し解決していく力を身につける。 自己の未来を切り開く力と大学での深い知識・技術を修得するために必要な力を身につける。	凡例	どちらかといえばそう思う どちらかといえばそう思わない そう思わない わからない		
評価項目	学校関係者評価	次年度への課題と改善策	意見・要望など		
総合的評価	0%10%20%30%40%50%60%70%80%90%100% 学校生活は楽しく、入学させて良かった。 学校の雰囲気や校風が良い。 探究活動が充実している。 ガチ・プロジェクトは魅力的な活動である。 グローバル教育が充実している。 学校行事が充実している。 部活動が充実している。 学費は適切である。 デジタル・シティズンシップ教育が充実している。 保護者会や三者面談の回数は適切である。 学校からの情報提供（スタディサプリなど）は、充実している。 本校への入学を検討しているお知り合いや親戚のお子さまに、本校への入学を勧めますか。 心の教育が充実している。 生活指導がしっかりしていて、いじめなどの問題が少なくとてもよい。 カウンセリングの体制が充実している。 校舎・施設は清潔で、安全への配慮が行き届いている Wi-Fiの通信環境が整っている。 北斗星の会の活動は充実している。 ■そう思う ■どちらかといえばそう思う ■どちらかといえばそう思わない ■そう思わない ■わからない ・心の教育やカウンセリング体制の質問に対して、肯定的な回答が55％程度であるため、情報への接触機会が少ない可能性が考えられる。一方では学校からの情報提供は充実しているが90％を超えている。今回のアンケートから「わからない」という回答を設けたが、質問によっては「わからない」が20％を超えているものが複数あるため、様々な情報をバランスよく提供していくことが必要である。 ・学校生活は楽しく入学させて良かった、学校の雰囲気や校風が良い、学校行事が充実している、のいずれも肯定的な回答が90％以上となっている。保護者の方にも生徒の学校生活の充実感が伝わっている様子がわかった。今後は一つ一つの行事を前例踏襲ではなく、質を高め、より満足度の高いものへ作り上げることが大事である。 ・サイエンスホールとIYU館へのWi-Fi設置工事が完了し、体育館以外の屋内では全館Wi-Fiの利用が可能となった。ただ生徒数の急増により、複数学年が一齐に利用すると若干の接続しにくい状況が発生している。令和7年度にはWi-Fiを強化する工事を行う計画である。 ・人工芝グラウンドの完成、令和7年度の計画の陸上グラウンドのオールウェザー化や体育館の床面の改修等、施設の充実を進めている。ただしサイエンスホールや本館A棟のトイレなど、施設、設備の老朽化が目立つところもあり、改修が必要である。 ・保護者と教員との意思疎通がしっかりできていないことがあった。 ・部活動で部員数が増え、レギュラー選手に指導が偏っているように感じられる。平等に指導していく体制、顧問を増やすなど部員全員の土壌、心のケアをできる体制を作って欲しい。 ・生徒数の急激な増加で先生方の目が届かない事も増えるのでは、と危機しています。そのため保護者や生徒の日を活用する日宝箱の設置など検討してはどうでしょうか。	学習指導評価	0%10%20%30%40%50%60%70%80%90%100% 進路指導が充実している。 英語検定の指導が充実している。 学習指導や教科指導に満足している。 ・昨年に続き英検指導で評価が低くなった。放課後に希望者への二次試験（面接）対策を行っているが、通年での英検ゼミを設置するなどの検討が必要である。 ・進路指導部、教務部の有機的な連携、英検等の外部検定対策、文理探究やガチ・プロジェクトへの充実など、総合型選抜、学校推薦型選抜への対応できるよう、多様な生徒のニーズに合った教育活動、進路指導を発展させていく。 ・学習者中心型の授業展開への取組へと移行しているが、まだ不十分な状態である。教員研修を積極的に行っていく必要がある。 ・一般選抜で合格できる力を、授業、ゼミ、個別対応等を通してつけさせる。 ・三年生での進路相談面談が少ない為、保護者としても不安でした。 ・生徒の人数が一気に増え、従来の親身になった進路指導が行われるのか不安です。 ・進学実績が下がってしまうのか心配です。有名大学の合格者数を上げてほしい。 ・部活動と学業の両立についての対策がないように思われます。 ・高3でのゼミが増えても、すでに塾や家庭教師など決まっており受講できません。ゼミは、高2から継続して実施してもらえれば、もっと活用できると思います。	教員評価	0%10%20%30%40%50%60%70%80%90%100% 担任は学級運営をしっかりとこなしている。 生活指導をしっかりとやってくれる。 質問や問いかけに、的確に対応してくれる。 生徒に公平で、困ったときに相談しやすく、頼りがいがある。 保護者と教員の関係は良好である。 ・全体的に教員評価の肯定的な回答の割合が低下した。習熟度別授業やゼミの充実、模試分析会からの授業へのフィードバック、共通テストや大学別入試問題研究の教科をあげての取組、生徒が実感できる形で満足度を上げていく。 ・公共機関でのマナー、自転車乗車時のルールの遵守など、苦情の電話をいただくことがある。学校全体の取り組みとして自由になったことの意味を、生徒に考えさせる機会がもっと必要である。 ・社会人としてのマナーや保護者対応などの課題を共有し、生徒保護者が安心して任せられる教員としての資質を向上させる。そのためにFind！アクティブラーナーを利用したオンライン研修をより促進する。 ・授業でわからないところがあっても、先生方が忙しいので、職員室にいても会えませんでした。先生方が多忙過ぎるように思います。 ・いつも子供たちのためにご尽力ありがとうございます。引き続き、よろしく願い申し上げます。